



北海道教育大学札幌校 の防災教育の取り組み



北海道教育大学札幌校 渡辺理文

防災教育の取り組み

教養科目「子ども・地域と防災（防犯）教育」

- ・ 札幌校と釧路校をつなげた遠隔講義
- ・ 社会科，理科，家庭科などの教科横断的
- ・ 災害時の学校の事例
- ・ 外部講師の招へい
 - 札幌管区気象台
 - 国土地理院北海道測量部
- ・ フィールドワーク
 - 防災マップの作成

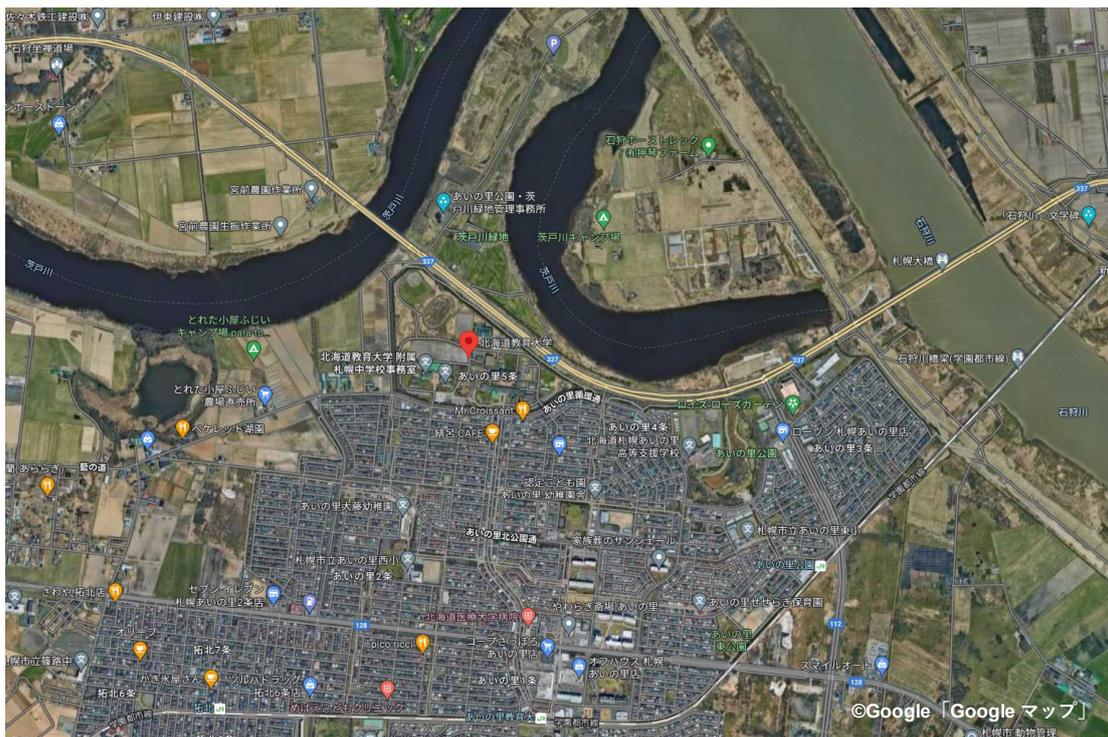
授業概要

本授業は学校現場において防災教育を指導できる教員を育成することを目的としています。授業では児童・生徒に自然災害や防災について指導するために必要な基礎的なことから講義とフィールドワークで学びます。

到達目標

- ① 教員として、防災への眼差しを持つことの重要性を理解し、自分の言葉で表現できる。
- ② 災害の種類、地形と災害との関係、災害への対応を知り、簡単な説明ができる。
- ③ 災害時における学校の役割と教員のあり方を理解する。
- ④ 各教科における災害・防災の取り扱いについて理解する。
- ⑤ 防災の視点から街並みや地域の営みを知り、検証する活動方法を理解し、自ら実践できるようになる。

学生の意識



大学の近くに川があることを意識していない
→実際に大学の屋上から確認する



(地図：国土地理院)

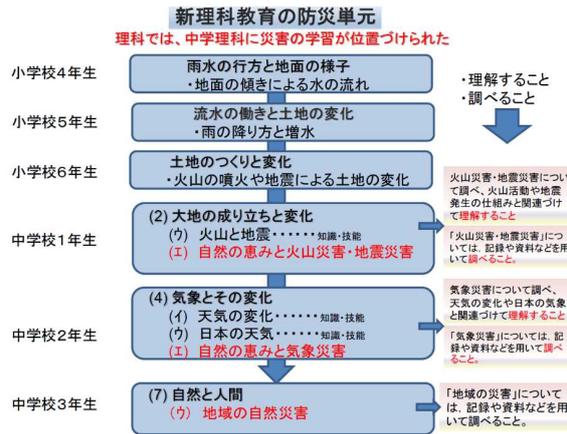
地図を読むことを大切にする，地図から防災の情報を得る
 普段気づかない視点がある（大学よりも駅の方が高いなど）

理科と防災教育

緊急地震速報！非常に強いゆれがきます・・・
 推定震度 **6強**
 強いゆれがくるまで **0** 秒
 あと **0** 秒

大きなゆれ到達
 最初のゆれ多キヤツ子
 地震発生

帯広啓西小学校



もっと実感できるように・・・



- ・ 地震，津波の仕組み
- ・ カリキュラム
- ・ 教材
- ・ 育成を目指す資質・能力

など

災害時の学校の対応 (事例も含む)



石巻市立大川小学校の事例 (児童68名, 教職員10名が死亡)

- ・なぜ大川小学校が避難場所になっていたのか？
- ・なぜ裏山に避難しなかったのか？
- ・なぜ堤防に避難しようとしたのか？
- ・なぜ避難するのに40分以上もかかったのか？

仙台高裁

- ・教師らは独自にハザードマップの信頼性を検討すべきだった
- ・教師は地域住民よりも高いレベルの知識と経験が求められる

外部講師の招へい

風の強さと吹き方

平均風速は10分間の平均

平均風速	20m/s	30m/s	40m/s	50m/s	60m/s
人間	歩きにくい	転倒する人もある	立ってられない	立ってられない	屋外での行動は極めて危険!
予想用途	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風	猛烈な風
平均風速	10~15メートル	15~20メートル	20~25メートル	25~30メートル	30~40メートル
屋外	草木が揺れ始める	電線が鳴り始める	電線が鳴り始める	電線が鳴り始める	電線が鳴り始める
車	高速運転中では、確認し直される感覚を受ける	高速運転中では、確認し直される感覚を受ける	通常の速度で運転するのと同様に	通常の速度で運転するのと同様に	通常の速度で運転するのと同様に
建造物	壁が揺れ始める	壁が揺れ始める	壁が揺れ始める	壁が揺れ始める	壁が揺れ始める

④eラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」の紹介

学校での活用例

みんなで意見交換して 自分の判断を再確認！ 疑問を解消し理解を深める!

みんなで意見交換

グループワークを進めるための資料は こちらからダウンロードできます。

グループワークの進行にそのまま使えます。(パワーポイント版、P.D.F版があります)

ハザードマップ (重ねるハザードマップ)

国土地理院

指定した地点の災害リスクをまとめて表示 (洪水のリスクレポートも表示可能)

札幌管区気象台, 国土地理院

- ・気象の基礎知識
- ・地図の利用方法
- ・授業におけるHPの活用事例

フィールドワーク・防災マップ作成



避難所までの経路
避難所の職員へのインタビュー
通学路での危険ポイント
など